

unicef



ユニセフ  
年次報告  
2013



#### 表紙

© UNICEF/NYHQ2013-1424/Noorani

いとこ同士、くったくなく笑う少女たち。2人はシリアから避難を余儀なくされた難民で、現在は、レバノンのベッカー高原のファイダの難民キャンプで家族とテント暮らしをしている。

**出典について：**本報告書のデータは、ユニセフ（国連児童基金）、各国連機関、ユニセフの各国事務所が提出している年次報告書、ならびに2014年6月3日～6日に行われた執行理事会に提出されたユニセフ事務局長年次報告書のデータに基づくものです。

本書において、コソボに対する全記述は、国連安保理決議1244（1999年）に準じたものです。

**本書に掲載されている金額の表記について：**断り書きがない限り、金額はすべて米国ドル表示です。

印刷後の誤りや訂正は、<[www.unicef.org/publications](http://www.unicef.org/publications)>でお知らせします。

#### ユニセフ執行理事会

ユニセフは36カ国の代表から成る政府間機関の執行理事会が管理し、ユニセフの政策を決め、事業を承認し、管理・財政案や予算を決めている。理事国は、国連経済社会理事会で選出され、任期は3年となる。執行理事会の年度は、1月1日から12月31日まで。

#### 理事会役員（2013年）

##### 議長：

ヤルモ・ヴィナネン（フィンランド）

##### 副議長：

フェリッツ・ホッジャ（アルバニア）

ジョージ・W・タルボット（ガイアナ）

モハンマド・カジー（イラン）

マカリア・カマウ（ケニア）

#### 2013年の理事国：

アルバニア、アンティグア・バーブーダ、ベルギー、ブルガリア、カナダ、中央アフリカ共和国、中国、コロンビア、キューバ、コンゴ民主共和国、デンマーク、ジブチ、エジプト、エストニア、フィンランド、フランス、ガンビア、ガーナ、ギリシャ、ガイアナ、ハイチ、インド、インドネシア、イラン、アイルランド、イスラエル、ケニア、ナミビア、ノルウェー、パキスタン、韓国、ロシア連邦、スウェーデン、スイス、タイ、米国

# 目次



はじめに

2



1

前進と約束の2013年：  
子どもたちに成果を届けるために  
新しい責任を担った年

4



2

成果の出る支援：  
最も困難な立場にある子どもたちから始める 12



3

人道支援に立ち上がる

18



4

すべての子どもに支援を届けるための  
パートナーシップ

24



5

成果をあげる運営

34

# はじめに

2013年は、何百万という子どもたちにとって嬉しい変化の年となりました。その内容は一人ひとり異なります。

マラウイでは、新生児がHIVに感染することなく誕生することができました。母親が、HIV母子感染を防ぎ、健康でいられるための処置を受けることができたからです。

コソボで生まれた赤ちゃんは、コミュニティの保健員により、出生登録を受けることができ、赤ちゃんの「健康を守る権利」、「教育を受ける権利」、「よりよい人生を送る権利」が守られました。

インドネシアでは、まだよちよち歩きの幼い子どもが早期幼児ケア（ECD）の事業に参加し、脳の発達が促され、学びの一步を踏み出しました。

ナイジェリアでは、遠隔地にまで予防接種キャンペーンが拡大し、子どもたちがポリオのワクチンの投与を必要回数だけ受けることができました。

イエメンに住む障がいのある男の子は、家に閉じ込められることなく、初めて学校に通えるようになりました。

ペルーに住む先住民族の10代の女性は、暴力反対、搾取反対を声に出して訴えられるようになり、これまでの辛い経験を乗り越えるための支援を受けています。

インドでは、女の子が結婚を強要されることなく、中等学校に進学することができました。

ケニアのナイロビにあるキベラ・スラムに住む一人の青年は、自分が住むコミュニティに潜む環境リスクや様々な危険要因を地図の上に記入（マッピング）して、生活環境を自分たちの力で改善しようと努力しました。

これらの話は子どもたち自身の話です。ユニセフが語るのには、ユニセフがどのようにして子どもたちに手を差し伸べてきたかということ。これは2013年だけではなく、創設以来変わらず伝え続けてきたユニセフの話です。

しかし、2013年は、多くの子どもたちにとって、何の変化ももたらされなかった（あるいは、驚愕するほど恐ろしい変化もたらされた）年だったとも言えます。シリアは、「失われた世代」が生まれる危機に瀕しています。中央アフ

リカ共和国では、恐ろしい暴力行為が繰り返され、誕生したばかりの南スーダンでは、激しい紛争が続いています。フィリピンでは、台風により甚大な被害もたらされました。これらは注目を集めました。この他にも世界各地で非常事態が発生しました。

そして、「格差」。裕福な国・地域の子どもたちと貧しい国・地域の子どもたちとの間の格差。都市部で生活する子どもたちと農村部に暮らす子どもたちとの格差。様々な民族の子どもたちの格差もあります。「ミレニアム開発目標（MDGs）」の達成目標年である2015年が近づく中、こうした格差がいまだに多く残っているのです。

2013年、サハラ以南のアフリカでは、米国に比べて5歳未満児の死亡率が平均で14倍も高いという結果になりました。北アフリカやサハラ以南のアフリカ、アジアの一部の地域では、女の子の就学を阻む大きな障壁がいまだに取り除かれていません。世界には、心と体に取り返しのつかない損傷を与える「発育阻害」に苦しむ子どもたちがいますが、こうした症状を呈する5歳未満児の80%が、わずか14カ国に集中しています。そして発育阻害を受ける割合は、都市部に住む子どもたちに比べて農村部に暮らす子どもたちのほうが高いのです。

『ユニセフ年次報告2013』では、支援を受けられずにいる子どもたちに支援の手を差し伸べるため、そして、社会の中で最も不利で困難な状況にあり、社会から取り残されている子どもたちの生活に変化を起こすため、ユニセフが行っている取り組みについてご説明します。こうした子どもたちに支援が届かなければ、子どもたちから権利が奪われ、虐待や搾取から逃れられず、声をあげることもできず、自分たちの権利を実現できない状況が続くのです。

2013年はまた、ユニセフにとって、重要な意味を持つ年となりました。

ユニセフの新たな中期計画が完成したのです。今後4年間はこの計画に基づいて、公平性に焦点を当てながらユニセフが掲げる優先事項に取り組んでいきます。その優先事項とは、子どもの保健、HIV／エイズ、水と衛生（衛生教育を含む）、栄養、教育、子どもの保護と社会へのインクルージョン（誰もが受け入れられる社会の実現）、さらにジェンダーや早期幼児ケアといった分野の枠を超えた課題です。



フィリピンのタクロバン市にあるユニセフが支援する「子どもにやさしい空間」で、子どもたちと話をしているアンソニー・レーク事務局長。台風ハイエン（台風30号）被災者に対する国連機関の対応の一環として、ユニセフは、水と衛生、衛生教育、保健、教育、子どもの保護の面で支援を行った  
© UNICEF/NYHQ2013-1241/Maitem

ユニセフは、事業と組織全体をより効率的・効果的に運営するため、内部プロセスの合理化を図りました。

また、ユニセフの活動のあらゆるレベルでイノベーション（革新的技術）を活用・推進するよう努めました。特に、そうしたイノベーションから最も多くの恩恵を受けられる、なおかつ、それを後押ししてくれる子どもたちや若者と協働して行いました。さらに、子どもの死亡率を低減するため、各国政府や市民社会から支援を受けられるよう新しいグローバル・パートナーシップも促進しました。そして、子どもたちへの暴力をなくし、シリアでは「失われた世代」を作り出さないよう、世界中の人たちとより積極的に協働していく必要性も強く訴えました。

ユニセフは、活動する環境の変化に適応し、子どもたちの新しいニーズに応じていく必要があります。それに対応する意思を持っています。しかし、変化やニーズに対応しているだけでは十分ではありません。そうした変化を私たち自身が作り出し、子どもたちの利益となるよう活用していかなければならないのです。

2013年、ユニセフの収入が大幅に増えたことに、心より感謝申し上げます。これは取りも直さず、最も困難な立場にある子どもたちをはじめ、自分たちの権利を実現できずにいるすべての子どもたちのために、成果をあげなければならないということを意味します。これは、ご支援をくださる皆様に対する、さらには、ユニセフが支援する子どもたちに対する責任でもあるのです。この責任を積極的に担って参ります。

アンソニー・レーク  
ユニセフ事務局長